

TOPICS

1

大村智博士岡山大学名誉博士称号授与式・記念講演会他を開催



1月21日、2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士へ岡山大学名誉博士の称号を授与する式典及び、記念講演会をオンラインで開催しました。本学学生を中心に350人を超える参加がありました。

授与式では、大村博士から「私は、岡山大学医学部の前進である第三高等学校のご出身で梅毒の特効薬を発見した秦佐八郎先生の孫弟子にあたり、色々な場面で勉強させていただきながら今日に至っている。秦先生の出身である岡山大学より称号授与をいただくことは、ひととき感慨深く、また光栄なことであり、心よりお礼を申し上げます」と謝辞をいただきました。

「イベルメクチンと感染症」と題した記念講演会では、米国留学でチャンスを掴んだこと、イベルメクチンを発見し、オンコセルカ症、リンパ系フィラリア症の撲滅に繋がっていったこと、また、イベルメクチンは、新型コロナウイルスに対しても諸外国で多くの臨床研究が行われ適用されており、そのメカニズムについても言及がありました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10831.html



TOPICS

2

令和3年度岡山大学発ベンチャー称号授与式を挙げる

2月2日、令和3年度岡山大学発ベンチャー称号授与式を挙りました。本制度は、令和3年度から創設したもので、本学の学生・教職員により、または研究成果を活用して起業したベンチャー企業に「岡山大学発ベンチャー」の称号を授与し、その企業に対して適正な支援を行うことを目的としています。授与企業には知的財産権に関する優遇措置や本学施設有償貸与の際の優遇、本学施設の住所による商業登記を可能にするなどの支援を行います。今年度は、申請のあった6社に称号を授与しました。

式では、榎野博史学長が授与企業の代表者ら7人に認定盾を授与。「今後は、本学から受け継いでいただいた社会課題解決の遺伝子を次世代に伝え、発展して欲しい」とあいさつしました。

授与式は「国立大学イノベーション創出環境強化事業」の取り組みの一つとして、イノベーションマネジメントコア ベンチャー支援フィールドが実施しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10863.html



Pick up!

「2021キャンパスベンチャーグランプリ中国大会」で大学院自然科学研究科の学生が最優秀賞及び奨励賞を受賞！



“学生起業家の登竜門”として知られている キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)の中国大会で、岡山大学発ベンチャー企業「株式会社TechSword」の長島慶樹さん、宮本大輝さん(いずれも大学院自然科学研究科博士前期課程1年)のグループが最優秀賞を、庵谷和希さん、越智彬裕さん、甲斐直人さん(いずれも大学院自然科学研究科博士前期課程1年)のグループ、及び是兼慎也さん、岡島大耕さん、上夷隆市さん(いずれも大学院自然科学研究科博士前期課程1年)らのグループがそれぞれ奨励賞を受賞し、1月20日に広島で表彰式が行われました。なお、本コンテストへは、大学院自然科学研究科機械システム工学専攻の授業「高度創成デザイン」の一環で応募したものです。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10851.html



TOPICS

3

ローカルSDGsの実現に向け、備前市と連携・協力に関する協定を締結

2月1日、備前市と、共同研究などを通じて教育及び産業の振興、地方創生、並びにSDGsの達成への貢献を目指す連携・協力に関する協定を締結しました。

本学大学院教育学研究科と備前市とは2021年11月10日に「教育振興に関する学官連携協定」を締結し、マイクロステップ・スタディと呼ばれる新型のeラーニングシステムを同市へ提供するなど、教育面での連携を進めてきました。並行して、同市と本学とは同市の抱える諸課題の解決に向けた協議を進め、その結果、同市の目指す産業振興・地方創生・SDGsの達成を実現するためには、全学的な連携体制の構築が必要であることから、全学の包括連携協定を新たに結び直すこととなりました。なお、「教育振興に関する学官連携協定」については、2022年3月末日をもってその趣旨・目的・内容を本協定に引き継ぎます。

今後は本協定に基づき、新型eラーニングシステムの提供や活用支援による教育の振興、中心市街地の活性化による産業の振興、同市の公共交通の活性化・観光客誘致の促進による地方創生、そして地域レベルのエネルギー地産地消モデルの検討によるSDGs達成などに取り組みます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10860.html



TOPICS

4

佐藤和広教授が「2022年度日本農学賞」を受賞



農学分野で優れた成果を挙げた研究者に贈られる「2022年度日本農学賞」(日本農学会)の受賞者が2月14日に発表され、本学資源植物科学研究所の佐藤和広教授が選ばれました。同賞の授与式は、日本農学賞授与式並びに読売農学賞授与式として、4月5日の日本農学大会に協同して行われます。

今回、佐藤教授の「オオムギゲノム多様性の解析と分子育種への応用」の業績が評価され、同賞の受賞が決定しました。佐藤教授は、受賞に対し「歴史ある賞をいただけることになり、大変光栄です。今後もこの賞に恥じない農学研究を続けたいと思っています」とコメントしています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10949.html

PRESS
RELEASE光で狙った細胞を死滅させる新技術の開発
～副作用のない光がん治療法に向けて～

岡山大学学術研究院医歯薬学域(薬)の須藤雄気教授、小島慧一助教、同薬学部の中尾新学部生の共同研究グループは、細胞をアルカリ化する光感受性タンパク質を用いることで、光で狙った細胞を選択的に死滅させる新技術の開発に成功しました。

細胞を死滅させる技術は、がんの治療に利用されています。これまで、細胞を死滅させる方法としては、主にくすり(薬剤)が用いられてきました。しかしながら多くのくすりは、目的のがん細胞だけでなく周囲の正常な細胞にも作用してしまい、投与によって毒性(副作用)を引き起こしてしまうという課題がありました。本研究で開発した「光細胞死滅法」をヒトのがんへと適用することで、周囲の正常な細胞には毒性を与えず、狙ったがん細胞のみを死滅させることが可能な「副作用のない光がん治療法」の開発につながると期待できます。

本研究成果は、2月17日にアメリカ化学会誌「*Journal of the American Chemical Society*」電子版に掲載されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id926.html



中尾さん(薬学部6年生)

